湊地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年7月8日（金）19:00～
開催場所	湊コミュニティセンター
参加者	10名（市長、湊地区コミュニティ、みなと活性化プロジェクト委員長・委員ほか）
選択トピック	若い世代が見つける「地元の魅力」と伸ばし方 1. 子どもの遊び環境・病児保育・地域活性化 2. 防災の取り組み



2. 主な議題と意見

(1)子どもの遊び環境・病児保育・地域活性化





① 現状

- 湊地区は自然環境に恵まれ、足湯やロンドンバスなど親子で楽しめるスポットが点在しており、子育てに適した環境である一方、日常的に子どもが遊べる場所は児童館などに限られている状況である
- みなと活性化プロジェクトでは、子育て世代を中心に月 1 回程度の委員会を開催し、桜まつりでの餅つき大会や「水辺で乾杯 in 白山手取川小舞子海岸」などのイベントを実施してきた
- 河川工事(西川・熊田川の治水事業)の影響により、西川の桜並木がなくなり、旧自衛隊官舎前の公園が分断され、総合グラウンドも狭くなるなど、地域でスポーツや子どもが体を動かせる場所が失われた
- 病児保育については、美川こども園での受け入れが当日にならないと確定しないこと、医師の診断書等の手続きが複雑なこと、看護師不在時には利用できない日があること、普段と異なる環境に子どもを預けることへのハードルが高いことなど、利用しにくい現状が指摘された

② 課題

- 公園は数が多いものの老朽化・遊具の劣化が進み、日陰や駐車場もなく、小さな子どもを連れていける環境が整っておらず、子どもの遊び場・公園の整備が不足している

- 病児保育の利用しづらく、当日の受け入れ可否が直前まで不明、手続きが複雑、定員が 4 名と少ない、看護師不在時の休止、空き状況のリアルタイム確認ができないなど、子育てと仕事の両立を困難にしている
- 旧自衛隊官舎跡地は西川拡幅工事の資材置き場として使用中であり、工事終了後の土地活用（財務省所有）の方向性が定まっていない、住民にとって好ましくない施設の誘致を懸念する声がある
- 高齢化率 31.6%の湊地区において、高齢者と子どもが日常的に交流できる場が少なく、介護予防・フレイル予防の取り組みが十分でない

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 病児保育の拡充について、松任の中央病院横に病児保育を備えたこども園を新設予定、鶴来・美川・松任の 3 地域に病児保育を配置する方針、手続きの簡便化や空き状況のオンライン確認についても担当部署と検討
- 公園整備の見直しについて、白山市は公園数が多く、十分整備が行き届いていない状況と認識しており、絞り込んで計画的に整備していく必要性を示した
- 旧自衛隊官舎跡地の活用について、工事終了後、財務省所有の土地について市として要望を伝えて住民の意向に沿う形で特別用途地区の指定なども検討する、また、駐車場の整備も進める予定
- 水辺空間・自然資源の活用として、地引き網の再開や自然体験（ジオパーク・ジオ育）の推進も検討

（2）防災の取り組み





① 現状

- 湊地区では毎年、防災計画研修会・防災フェア・避難合宿を実施し、地域の防災力強化に継続的に取り組んでいる
- 今年度は金沢大学の村田先生による「地震の揺れと住宅崩壊、減災方法とは」をテーマとした研修（8 月 22 日）を予定
- 防災フェアでは浸水リスクの区ごとの展示、水浄化装置による飲料水確保の技術紹介、通電火災防止（北陸電力・防災科研との連携）、エコノミー症候群予防など新たな取り組みも加えている
- 感震ブレーカーについては、各区の新年会・総会で説明を行い、今年度中に 100～200 件規模での普及を目指している

② 課題

- 能登半島地震の際、学校（避難所）の方針と地域防災の方針が一致せず、学校と地域がすり合わせを行う必要がある
- 湊地区の人口約 2,000 人に対し、避難所（コミュニティセンター）の収容人数は 200～300 人程度であり、大半の住民は車中泊・在宅避難を余儀なくされる現実がある
- 湊地区は地震の揺れが大きく出る「先打ち」の地域特性があり、2000 年の耐震基準を満たさない古い家屋が多数存在する

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 国の防災科学技術研究所とタイアップした「地域防災と学校防災の連携」講座を防災フェアに組み込み、学校側にも理解を深めてもらう取り組みを進め連携を推進していく
- 避難所としての学校機能の強化を図るため、避難所となる学校の機能（電源確保等）について、引き続き整備を進めていく方針を示した

---

3. まとめ

湊地区は、みなと活性化プロジェクト委員会による桜まつりでの餅つき大会や「水辺で乾杯 in 白山手取川小舞子海岸」などのイベントの開催など、子育て世代が子どもの環境について積極的に考え、地域活性化に取り組み、また、防災意識の高い地域づくりをしている地区です。

今回のミライ会議では、みなと活性化プロジェクトの若い世代が中心となり、子どもの遊び環境・病児保育の改善・地域活性化（桜まつり・水辺空間の活用）・防災の取り組みについて、具体的な現状と課題、将来のありたい姿が発表され、具体的な話し合いをしました。

市としましては、子育てしやすい環境をしっかり作っていくため、住民の意向を踏まえた旧自衛隊官舎跡地の土地利用についての国等への要望、病児保育の利用促進の研究、西川・熊田川の整備後の水辺空間を活用した自然体験（ジオパーク・ジオ育）の推進も検討するなど、課題解決に向けて努めていくことを確認しました。

